

学校通信

強い綱

2014年5月号
 新版 第66号
 編集
 駿台甲府高等学校
 駿台甲府中学校
 駿台甲府小学校

問題を解く(1)

覚えること・理解すること

小・中・高指導監 石川 博
 定期考査

昨年度まで、小学校に勤めており、四年ぶりに高校に戻ってきました。小学校に行っていた当座はいろいろなことが新鮮で驚きもありましたが、それにも慣れたためか、今度は高校で、かえってとまどうこともありません。たとえば、授業で映像をあまり使わないことや、クラス授業ではない選択授業が数多いことなどです。そして大きな違いの一つが、高校には定期考査(中間試験や期末試験)があることです。

定期考査は年五回、高校では一回につき四日間ですから、計二十日、登校日数の一割に及びます。その分、授業を行えばもつとたくさんのお金を教えられるとも考えられます。それでも定期考査を実施するのは、これを機に生徒が勉強し、力をつけることが経験上わかっているからです。

いったい定期考査は何のために行われるのでしょうか。言うまでもなく、学習の定着を図るためです。授業で教わったことが本当に理解できているか、あるいは、記憶しているか、について問題を解くことで確認するのです。教員側からすると、自分が教えた内容がきちんと理解されているかどうかはわかりません。そして一定の点数がないと単位が認定されません。

問題を解くこと、が定期試験ですが、その内容は、「覚えること」と「理解すること」の二つであり、それを意識した準備が有効です。かつては、学習の多くの部分を「覚えること」が占めていました。今でも、古文の定期考査の際、現代語訳を暗記することで点数を稼ごうという生徒も多く、実際にそれで点数が取れてしまう部分があります。そして、本番の大学入試では、思うほど点が伸びないということも起こります。

そこで、定期考査に臨む際には、「理解すること」も重視してほしいのです。数学でも、応用問題ばかり出題したのでは、なかなか点数が取れないので、記憶で対処できる問題も出しますが、本質は「理解すること」です。

定期考査や、中学・高校の入試では、記憶力によって解ける問題がたくさん出題されます。しかし難関大学の入試では理解力がないと高得点を望めません。

理解力をつけるには

理解力をつけるための学習方法は、授業への集中と予習復習です。これが中途半端になると、たとえば、塾などで学校の教材以外の勉強に取り組んでも結局力がつかない、ということになってしまいます。また、効率よく勉強することも意識しましょう。

それは、いわゆるアンチョコを暗記することではありません。集中して「覚える」ことです。授業中の先生の問いかけ、自宅での問題への取り組み、いずれも頭をフルに回転させ、自分なりの答えを出す。その作業の後で、答えを聞いたり、見ることで。

そして、本校の場合、普段の授業と大学入試が乖離しているようなことはありません。授業を理解していけば、大学入試に必要な学力がつかれます。生徒諸君には、暗記にたよらず、仮説を立て、それを検証して、答えを導くという学習方法を、普段から意識してもらいたいのです。

解くことから発見することへ

今後「問題発見型」の学習が重視されてくると、考査の形が大きく変わることが考えられます。今でも平常点として、一定の点数をペーパーテストに加えることが行われていますが、たとえば、「現代文」では、授業で一人ひとりにプレゼンテーションをさせて点数化し、それが定期考査の代わりになることもあり得ます。現在の実技教科での評価に近い形でしょうか。「出された問題を解く力」と「自分で問題を発見して解決し、それを人に説明する力」の両方が求められる時代になりつつあります。

現在、多くの大学入試では、まだ、旧来の「問題を解く力」すなわち、知識力と理解力が問われます。センターも二次試験も私大の一般入試も同様です。それに対し、大学に入ってから自ら問題を発見し、それに取り組むことが求められます。もともと、最近では基礎的な力がないため、教養課程で高校の学習を補うような授業をせざるを得ない大学も増えていきます。

その一方で、AO入試なども増えつつあり、自ら問題を発見する力を持つ高校生が求められる傾向もあります。実社会でも記憶力、理解力とともに、問題発見力・説明力が求められるようになるでしょう。本校でも、グローバル化時代を見据え、これらの力もつけていきたいと思っています。

将来に向けて役立つこと

さて、自分自身の高校時代を振り返ると、必死になって定期考査に取り組む生徒ではありませんでした。駿高生の平均より学習量が少なかったと思います。帰りがけに教室掲示で、翌日の試験科目を確認し、帰宅後にノートと教科書を見直す、という簡単な準備で済ませていました。当然、成績もそれなりでした。もちろん周囲には真面目に勉強している生徒もいましたが、多くの仲間が割とのんびりした雰囲気でした。午前で解放されるので、午後は、図書館で本を読んだり、道草を食ったり……。普段から、いくつもの教科の予習が必要で、課題も出るし、部活に励んでいた生徒も多かったのです。それらがない考査中ではかえって時間に余裕があったのです。

あのときもつと勉強しておけば、英語も数学も理科もものになったかもしれない、と思います。大学でも英語や数学の授業はありましたが、基礎的な力(問題を解く力)がついてないと、偏頗な理解で終わってしまいます。高校時代は基礎力をつけるべき時ですから、記憶や理解がたいせつです。「問題を解く」定期考査に真剣に取り組むことが、将来の、問題発見力・説明力に向けてのいい準備になる、とわかったのは、ずいぶん後のことでした。

高校より

山梨インターハイに帰ってくる

陸上競技部顧問 三枝幸雄

全国一早いインターハイ予選が5月3、7、8日と山梨中銀スタジアムで行われました。県高校総体が関東の、また全国の予選を兼ねているから大変です。この時期にタイムも順位もないと、シード等で不利になるから適度な調整が必要になってきます。学校対抗と全国に挑戦するという矛盾する2つの対策を立てなくてはなりません。今年の生徒たちは例年以上に冬の練習に真摯に取り組んできました。大雪の影響がありました。何とか関東で戦える競技力にまで向上しています。学校対抗は男女とも100点を超える得点をあげましたが、総合では優勝するまでには至りませんでした。しかしながら、女子が両リレーで総体新記録を、また八種競技で山下黎君が県高校新記録で関東でも優勝を収める立派な記録を樹立しました。その他、関東レベルに近づいた好記録も誕生しています。ここからは県高校総体がゴールではなく関東に全国にピークを持つて行けることを実証していきます。今後も駿台甲府高校の「文武共存」の高校生活を大切に、関東で6位入賞(混成は3位)、地元山梨インターハイに必ず帰ってきたいと思えます。

関東大会に向けて

卓球部顧問 若林秀則

先日緑が丘スポーツ公園体育館で行われました県高校総体兼関東大会予選において、男子学校対抗の部で第3位となり、関東大会への切符を10年ぶりに獲得しました。上位4

チームによる決勝リーグでは、2敗どうして最終の甲府工業戦を迎えました。相手校の大応援団が取り囲む中、チーム8名がひとつになつて戦い、見事3対0で勝利しました。部員全員で勝ち取った関東大会への切符です。

指導者や練習場所を見ても、他の有力校と比べ恵まれた環境ではありません。また、文武共存を実践すべく、放課後の講習へも積極的に参加しています。そのような環境の中でも、お互いに話し合い、工夫しながら日々鍛錬し、着実に力をつけてきました。

関東大会は5月30日(金)～6月1日(日)に千葉県千葉市の「千葉ポートアリーナ」で開催されます。また、翌週にはインターハイ県予選も控えています。今年度のインターハイは山梨県で開催されることもあり、例年よりも出場枠が増えます。その出場権を獲得できるように、弾みをつける関東大会にしたいと思っています。

今後もご声援の程宜しくお願います。

応援ありがとうございました

男子ハンドボール部顧問 山下敏伸

小瀬体育館で行われた今回の総体では、野球部、サッカー部、陸上部をはじめとする多くのみなさんに連日大きな声援をいただきました。また、平日の開催にもかかわらず、保護者の皆様にもたくさん集まっていたいただきました。温かな応援に後押しされ、すばらしい結果を残すことができましたことを、まずは感謝申し上げます。ありがとうございました。



大会では、吉田、日川、都留を撃破し、9年連続21回目の優勝を飾ることができました。



校内的に立場を変えた八田先生ともども変わらぬ成果に胸をなでおろしているところです。同時に、毎日朝早くから夜遅くまでがんばっている部員たちの苦労が報われた形となり、喜びに堪えません。駿台のハンドボールは徹底的に走る、最後の最後まで走り切るところに特徴の一つがあります。この力をつけるためには「鍛錬」(鍛は千日の稽古、錬は万日の稽古)という言葉にふさわしい、想像を絶する練習を繰り返さなければなりません。常勝の陰に隠されたこの努力こそ称賛に値するものだと思います。総体優勝を持って、関東大会に臨みます。関東には強豪校が多く、ハードな戦い必至ですが、生徒たちがその力を最大限に発揮できるように、微力ながらサポートしていきたくと思えます。さらなる応援をよろしくお願いたします。

女子ハンドボール部顧問 益田耕治

女子ハンドボール部は先日行われました県高校総合体育大会決勝戦で県立日川高校を24対23で下し、二年ぶりの優勝をすることができました。準決勝からなかなか波に乗れず、決勝も前半のビハインドを背負いながら、非常に苦しい戦いを強いられましたが、会場に駆けつけていただきました、多くの応援の声を力に接戦をものにすることができました。本当にありがとうございました。

チームは、全国選抜大会に出場できなかった悔しさを糧に関東大会をステップとして、何よりも夏のインターハイ出場を目指して、日々の練習に励む事は勿論の事ですが、体を鍛えるのみでは全国では通用しないと考えます。同時に普段の生活・授業を大切に、頭も鍛え、判断力を磨き、どんな事にも向上心をもつて取り組むよう指導していきたいと思えます。本年度は関東のレベルが非常に高く、全国選抜においても優勝は東京都、ベスト8に千葉県・群馬県となっていますので、関東大会翌週に控えるインターハイ県予選においても優勝につながる戦いをしたいと思います。三年三名、二年四名、一年八名の部員が一丸となつて戦いますので、是非とも応援よろしくお願いたします。

水泳部顧問 小高淳

今年度の高校総体の水泳競技は、5月7日、8日に山梨学院シドニー記念水泳場で行われました。昨年度の男子5位、女子2位を上回る結果を目指し、スクールに通っている生徒はそこで、通っていない生徒は緑が丘の室内プールを中心に練習してきました。3年生は放課後講習にもしっかり参加し、その後17時過ぎから19時ころまで、2×3000mを泳いできました。また、1年生も5人入部し、そのうちの3人が先輩たちの力に少しでもなろうと、大会出場をしてくれました。

2日ともいい成績でしたが、特に女子の4×100mフリーリレーは県高校新記録にあと少しという記録でした。男子では50m背泳ぎで保暁人君が100mでは惜しくも達成できなかった総体新記録を出し、1位になりました。この大会の経験を次の6月の関東大会の予選に繋げ、1人でも多くの選手が関東に出場できるように、これからも一人一人が自分に厳しく練習して欲しいと思います。

中学校より

中学校校長 河崎哲郎

善人説と悪人説

「日本の良さは外に出てみるとよく分かる。」とは、よく言われることです。電車が定刻で動き、止まる位置も一寸たりとも違わない。公共のトイレはきれいで、街中にごみが散乱しているという光景も少ない。ゴミを路上に捨てたら罰金といった罰則で強制することなくこれだけのことが出来ている国もそう多くはありません。以前行っていた英国ホームステイ研修に参加した本校の生徒の一人が、「(イギリスの) 街中や学校内に設置されているゴミ箱の多さに驚いた。」と感想を述べていました。一見サービスが行き届いているようですが、ひよっとしたらポイ捨てに苦慮した策なのかもしれません。イギリスではごみ箱がなければ街中がゴミだらけになってしまうのでしょうか。

えを「善人説」と呼びましょう。多くの日本人は「善人説」を信じていると感じます。「善人説」に相対する言葉は「悪人説」となります。「人はもともと悪人である。」という考えです。「悪人」というのはあまりよくないので「人はもともと不完全である。」と言い換えたほうがよいかもしれません。洋画の中で壁を隔てて神父に罪を告白しているシーンをご覧になったことがあると思います。自分の犯した罪を告白して赦しを乞うているのです。私はクリスチャンではありませんが、そういったシーンからは懺悔すれば赦される、そして神も何度でも赦すのだろうと感じてしまいます。当然そんな単純な解釈ではないとは思いますが、そのまま見て取ればそういうことになるのではないかと思います。人はもともと不完全であり、失敗をしてしまう。間違いを犯すのは仕方がないのだというのが根本にある考え方なのでしょう。西洋では人々の日常生活、社会、文化、芸術等あらゆるものがキリスト教を基本にしています。そう考えると西洋の人々の考えの基礎には「悪人説」があると私には思えます。度あるごとに私はそう感じてきました。

いろいろなものを外国から取り入れているのに不思議です。日本人の精神風土に合わなかったのでしょうか。「悪人説」が日本人には馴染まなかったのでしょうか。キリスト教は一神教ですが、それもまた日本人には馴染まなかったのかもしれない。我々は和の心で協調していくことを得意としています。一人の絶対的なリーダーのもとで動くというのはあまり得意ではありません。例えば、日本の首相には他国で見られるような絶対的な権力は与えられていないし、学校における日常の問題解決にあたってはチームを組んで臨むことが当たり前となっています。会社においても日本の会社では、幹部と社員の給料の差は先進国の中ではとても小さい。

グローバリゼーション

異なる考えを

尊重することから

このように考えてみると、西洋では「悪人説」が根底に、日本では「善人説」が根底にあるという結論に行き着きます。西洋と日本は現代では生活水準的には同様な段階にあると思いますが、考え方や物事の価値観においてはいろいろ違いがあります。その違いのものになっていくものの一つが「悪人説」と「善人説」の違いではないかと思うのです。人を見たら泥棒と思うか、渡る世間には鬼はいないと思うかということです。文化人類学者の梅棹忠夫さんは「文明の生態史観」の中で世界を横長の長円に見たてて、生活様式が高度の近代文明である第1地域とそうでない第2地域に分けました。東の端と西の端が第1地域で東が日本、西がヨーロッパで中央の大きな部分がその他の地域(第2地域)になります。彼は世界をどのように分類して、「わたしは、明治維新以来の日本の近代文明と、西欧近代文明との関係を、一種の平行進化とみています。」と言っています。日本は西洋文化を取り入れはしたが、同化していったわけではない。日本は西洋のように近代化したのが西洋化したのではなく、基本的に異なるものとして発展してきた。異なるものとして発展した背景にまさに日本の「善人説」と西洋の「悪人説」があったのではないかと密かに思っています。「善人説」と「悪人説」のどちらが良いとか正しいとかいうことはできません。けれどもどちらの考えを基本とするかによってものの考え方は違ってくると思うのです。いろいろな考え方の人と協力していくことが求められている、グローバリゼーションという言葉で代表される今の時代に、様々な問題に対して適切な判断対応をしていくために、この2つの相反する考え方があることを改めて認識することは何らかのヒントになるかもしれません。そして今大きく拡大してきています。そしてそこにはまた3つ目、4つ目の異なる考え方があるかもしれません。和の心を大切に宇宙ステーションの船長の任務を全うし無事に地球に戻って来た若田さんもしかしたらそんなことを考えていたのではないかと思います。

かつてイザヤ・ベンダサンという人が「日本人とユダヤ人」という著書の中で、「日本人は水と安全はタダだと思っている。」と書いています。最近ではペットボトルの水を買う人も増え、凶悪事件も増えたかもしれませんが、依然として水道の水は飲めるし、街中を普通に歩くことも出来ます。これは世界一般の常識では考えられないことです。一般的に我々日本人の多くは安全はタダだし、人間の本性は良いものだと思っているところがあると思います。仮にそういう考

日本はよく明治維新を機に急速に近代化が進み、先進国の仲間入りをしたと言われます。明治になりヨーロッパのいろいろな制度や文化を取り入れてきました。我々の生活は高々百数十年の間に大きく変化しました。何でも自分流に取り入れるのが上手な日本人ですが、なぜかキリスト教は普及しませんでした。現在の日本におけるキリスト教徒の割合は1%前後と言われています。16世紀にフランシスコ・ザビエルが日本にやってきて以来500年くらいの歴史があるにもかかわらずです。これだけいろ

小学校より

スポーツを好きになる条件

小学校校長 坂本 宏行

二〇二〇年には五十六年ぶりにオリンピックの東京開催が決定し、スポーツへのモチベーションが高くなってきています。特に、その中核となっているのが、JOC（日本オリンピック委員会）であり、二〇〇八年に開所した我が国初のナショナルトレーニングセンター（NTC）です。NTCの担う役割は、トップアスリートのトレーニングを行うための専用施設として集中的・継続的な強化活動、競技者育成プログラムに基づくジュニア世代の育成、トップアスリート強化する指導者の質の向上です。

佐野夢加選手（駿台甲府高等学校出身、現在は本校の三井夢加先生）も出場したロンドンオリンピックでは、日本選手団は過去最多のメダルを獲得しました。身体能力・競技技術の向上のみならず、各競技の選手たちが練習し競い合う中で、競技の底上げ、「チームジャパン」としての一体感が生まれ、ロンドンオリンピックでの躍進に繋がったと言われています。中央市出身の卓球選手の平野美宇選手も昨年から山梨を離れ、「エリートアカデミー」で生活し、女子十五歳以下ランキングで世界一になりました。この「エリートアカデミー」は全国から有望な中高生が東京に集まり生活し、栄養管理、メンタルサポート、語学やコミュニケーション能力プログラム、そして一流のコーチから指導を受けています。こうした公的組織による環境作りや選手強化などの取り組みの効果が出ています。

さて、本校でも、算数、国語力の向上と今年「体力の向上」を目標に掲げています。本校での体力測定の結果、多くの課題に直面しました。平成二十五年度の全国体力調査で小学校二万校以上（参加率98.4%）が参加しました。全体としては、測定結果は、ほぼ横ばいという結果でしたが、週に420分以上運動すると答えた小学生は減少し、週に60分未満と答えた割合は女子が高く、21.0%と深刻な状況です。当然ながら、「運動やスポーツが好き」と答えたグループほど運動時間も長く、体力測定の合計点も高いです。では、どのような条件なら今よりもっと運動やスポーツをするようになるのかという質問に、「好き・できそうな種目があれば」、「友だちと一緒にできたら」と多くの児童が回答しています。特徴的なものには、「自由な時間があれば」、「一人でもできるものがあれば」、「友だちから誘われたら」などがありました。

本校では、今年度の体力測定の全種目が終了していないので結果はこれからですが、児童会の委員会の目標にも「体力強化」が掲げられており、子どもたちの意識にも変化が見られています。

「スポーツ施設の整備、拡充」もありますが、「授業以外で楽しく運動ができる時間を設定する」、「授業内での教科や指導の工夫」に取り組んでいます。そして、「みんな遊ぶ」から「スポーツを楽しむ」への移行が重要なポイントと考えています。

そして、昨年から立ち上げているICT（Information and Communication Technology）プロジェクトでも電子黒板やタブレット端末などの情報機器を体育の授業に活用することも計画しています。

我々は、スポーツが大好きで楽しく取り組んでくれる子どもたちを育ていきます。

笑顔いっぱい地域探検

一学年主任 小西 静穂

入学してから約二か月。学校生活にも慣れ、元気に楽しく生活している一年生です。五月八日（木）には、生活科の学習で地域探検に行きました。学校の外にあるものや出会う人、歩く道の様子、自然などに目を向けて、ルールを守って安全に気をつけて歩くことが目的です。

事前学習では、まず地域探検のしおりを読み、行く場所を知りました。目的地は、学校の南側に位置する南部市民センターです。見学したり歩いたりするときの約束もしました。①車に気をつけてきちんとならんで歩く。②お話をよく聞く。③友だちと一緒に仲良く活動する。この三つをみんなで行うと確認しました。

地域探検当日は、とても良いお天気になり、出発式では「行つてきます！」の大きな一年生の声が学校中に響きました。

南部市民センターまでの道の周りには、とうもろこしや茄子を作っている畑が多いのがこの地域の特徴です。数日前に一年生もとうもろこしの種をまきましたが、途中の畑のとうもろこしは、すでに一年生の背丈以上に大きくなっていました。茄子畑で作業をしているおじさんに元気に挨拶したり、川沿いを歩くと鯉を見ついたり、たくさんのお見見をしながら楽しく南部市民センターにつきました。

南部市民センターは、大人が学習する場所であることや図書館があること、そして、このような施設には珍しい温泉があることを館長さんから聞き、その後は二グループに分かれて施設内の見学を行いました。ちょうど、駿小のお母さんたちが工作をして

いてその様子を見学させてもらったり、温泉の源泉にもさわったりして、「今度温泉に入りこよう。」なんて、話しているお友だちもいました。

南部市民センターを出発すると、荒川のサイクリングロードを学校まで帰るルートです。サイクリングロードでは、休憩もかねて草花や昆虫探しをしたのですが、まだまだ元気に子どもたちは、休憩は少しか探しに夢中になっていました。やはり、子どもたちには、自然の中での活動が一番です。笑顔いっぱい楽しみました。

最後は、おなかもすいて少しペースダウンしましたが、全員無事に学校まで歩き通しました。

これから、もつともっと楽しいことがまっている小学校生活です。日々成長する一年生にこれからもたくさんのお応援をお願いします。



高校より

2014年度

県高校総体の記録

《学校対抗総合得点》

男子総合 第5位 (20点)

女子総合 第5位 (16点)

男女とも五位 史上初の快挙!

生徒会顧問 永山紀雄

例年通り小瀬中銀スタジアム正面入り口前にテントを張りました。左右を日川高と甲府西高に挟まれ、やや緊張した三日間となりました。さて、生徒会本部の仕事は開会式・閉会式への参加と、試合結果の記録、他校との交流でした。

開会式の入場行進は十八番目で、例年と同じく野球部員

（フラカード、旗手各一名と、本校教員四名（校長を含む）で行いました。閉会式は生徒会役員（十四名だけの参加で、表彰式を兼ねたものです。結果は、男子、女子ともに団体総合で五位（表彰は六位ま



で)でした。これは昨年掲げた「男女ともに六位入賞」という目標を達成しています。実に、本校史上初めての快挙となります。

交流は各校の生徒会誌の交換です。本校の『ペリパトス 十九号』(二〇一四年三月一日発行)を差し上げ、三十数校からいただきました。それぞれの学校ごとに工夫された個性ある冊子に仕上がっており、学校内部の様子がよくわかります。また、今年本部テントで各試合の結果報告を受け取るという仕事をしました。その報告に一喜一憂する姿が印象的でした。

【総体の写真は本校写真部撮影】

【各部の結果】

— 男子 —

〔ハンドボール部〕

《優勝》 総体得点 5点

準々決勝戦	対 吉田	37 対 18
準決勝	対 日川	47 対 19
決勝	対 都留	53 対 22

関東大会出場

〔卓球部〕

《3位》 総体得点 5点

(団体戦)	対 甲府一	3 対 0
1 回戦	対 都留	3 対 0
2 回戦	対 明誠	3 対 1
準々決勝	対 航空	0 対 3
決勝リーグ	対 甲府商	0 対 3
	対 甲府工	3 対 0

関東大会出場

(個人戦) シングルス

内田涼介(2D) 4回戦進出
ベスト16

〔陸上競技部〕

《3位》 総体得点 5点

100m	2位 小田遼太(3A)
200m	7位 山下 黎(3A)
400m	1位 小田遼太(3A)
800m	4位 大久保雄平(1A)
1100mH	1位 渡邊黎旺(3D)
400mH	3位 小田遼太(3A)
4x100mR	2位 渡邊黎旺(3D)
4x400mR	5位 平出圭亮(3A)
	6位 平出圭亮(3A)
走幅跳	1位 奈良、小田、山下、大久保
	渡邊、小田、奈良、山下
3位 山下 黎(3A)	
8位 渡辺竜麻(3A)	
7位 渡辺竜麻(3A)	
8位 深澤隆晟(2A)	
1位 山下 黎(3A)	

※県高校新、総体新
2位 渡辺竜麻(3A)
6位 矢部裕太郎(2B)

※山下黎(3A)が個人・リレーで
4冠達成!!

関東大会出場

〔テニス部〕

《3位》 総体得点 3点

(団体戦)	対 農林	3 対 0
2 回戦	対 日大明誠	2 対 0
準々決勝		

準決勝 対 甲府南 2対0

一位決定戦 対 山梨学院 1対2

二位決定戦 対 甲府一 0対2

(個人戦シングルス) 吾妻進也(3F) 3位

(個人戦ダブルス) 吾妻・依田 3位

志村・清水 4位

〔ゴルフ部〕

(団体戦) 《準優勝》 総体得点 1点

(個人戦) 2位 石巻貴羅(1G)

〔バレーボール部〕

《6位》 総体得点 1点

2 回戦	対 笛吹	2 対 0
準々決勝	対 甲府工	0 対 2
順位決定戦	対 白根	2 対 1
順位決定戦	対 谷村工	0 対 2

〔水泳部〕

《5位》

50m自由形	3位 多田隆亨(2A)
100m自由形	7位 多田隆亨(2A)
200m自由形	8位 野口英史朗(1H)
50m背泳ぎ	1位 保 暁人(3D)
100m背泳ぎ	1位 保 暁人(3D)
200m背泳ぎ	5位 米山太志(2A)
50m平泳ぎ	2位 米山太志(2A)
100m平泳ぎ	4位 本田 駿(3C)
50mバタフライ	4位 本田 駿(3C)
2000個人メドレー	8位 野口英志朗(1H)
4000個人メドレー	4位 海野未来(2B)
	3位 海野未来(2B)

※大会新記録



〔バスケットボール部〕
 1回戦 対富士学苑 89対11
 2回戦 対市川 28対102

〔空手道部〕
 (団体組手)
 1回戦 対甲府第一 1対3
 (団体形) 6位
 (個人形) 6位 藤巻睦(3F)
 9位 丸山真沙人(3E)



4×100mリレー 5位 多田、保、堀内、米山
 4×100mメドレーリレー 5位 米山、本田、海野、多田
 〔ソフトテニス部〕
 1回戦 対農林 3対0
 2回戦 対甲府昭和 1対2
 《ベスト16》

50m自由形 1位 齊藤千遥(1F)
 2位 小西麻友(2A)
 7位 小菅陽菜(1C)
 2位 岩間千花子(2A)
 4位 植松里菜(3C)
 1位 岩間千花子(2A)
 2位 植松里菜(3C)
 4位 岩本紗季(3A)
 1位 小松あい(2B)
 7位 小菅陽菜(1C)
 100m背泳ぎ 1位 小松あい(2B)
 3位 齊藤千遥(1F)

〔水泳部〕
 50m自由形 1位 齊藤千遥(1F)
 2位 小西麻友(2A)
 7位 小菅陽菜(1C)
 2位 岩間千花子(2A)
 4位 植松里菜(3C)
 1位 岩間千花子(2A)
 2位 植松里菜(3C)
 4位 岩本紗季(3A)
 1位 小松あい(2B)
 7位 小菅陽菜(1C)
 100m背泳ぎ 1位 小松あい(2B)
 3位 齊藤千遥(1F)

〔ハンドボール部〕
 2回戦 対甲陵 43対6
 準決勝 対吉田 25対16
 決勝 対日川 24対23
 総体得点5点
 《優勝》
 総体得点5点
 関東大会出場

―女子―
 〔バドミントン部〕
 1回戦 対山梨学院 1対3
 〔サッカーク部〕
 1回戦 対甲府城西 0対2
 〔剣道部〕
 1回戦 対城西 2対3

4×1000mR 1位 秋山、小松、白倉、山田
 4×400mR 1位 山田、小松、山岸、白倉
 走幅跳 2位 藤本真優(3E)
 5位 井上萌花(2A)
 7位 保坂奈菜(1A)
 2位 藤本真優(3E)
 8位 篠原理加(1H)
 七種競技 ※山田美衣(2G)が個人・リレーで4冠達成!!
 関東大会出場

4×1000mR 1位 秋山、小松、白倉、山田
 4×400mR 1位 山田、小松、山岸、白倉
 走幅跳 2位 藤本真優(3E)
 5位 井上萌花(2A)
 7位 保坂奈菜(1A)
 2位 藤本真優(3E)
 8位 篠原理加(1H)
 七種競技 ※山田美衣(2G)が個人・リレーで4冠達成!!
 関東大会出場

200m 1位 小松さくら(2B)
 7位 秋山 萌(1A)
 1位 山田美衣(2G)
 4位 小松さくら(2B)
 6位 白倉若奈(3A)
 1位 山田美衣(2G)
 2位 白倉若奈(3A)
 5位 山岸花陽(3A)
 3位 山岸花陽(3A)
 4位 川野南緒(3A)
 7位 衣川佳奈(2H)
 2位 川野南緒(3A)
 4位 衣川佳奈(2H)
 400mH 1位 衣川佳奈(2H)
 2位 川野南緒(3A)
 400mH 1位 衣川佳奈(2H)
 2位 川野南緒(3A)

〔陸上競技部〕
 100m 3位 小松さくら(2B)
 7位 秋山 萌(1A)
 1位 山田美衣(2G)
 4位 小松さくら(2B)
 6位 白倉若奈(3A)
 1位 山田美衣(2G)
 2位 白倉若奈(3A)
 5位 山岸花陽(3A)
 3位 山岸花陽(3A)
 4位 川野南緒(3A)
 7位 衣川佳奈(2H)
 2位 川野南緒(3A)
 400mH 1位 衣川佳奈(2H)
 2位 川野南緒(3A)
 400mH 1位 衣川佳奈(2H)
 2位 川野南緒(3A)

〔卓球部〕
 (団体戦)
 1回戦 対富士北陵 3対1
 2回戦 対甲府商業 0対3
 〔剣道部〕
 1回戦 対甲府東 1対4
 〔ゴルフ部〕
 (個人戦) 4位 内藤桃乃(1G)
 〔空手道部〕
 (個人形) 出場 近藤樹理(2B)

〔卓球部〕
 (団体戦)
 1回戦 対富士北陵 3対1
 2回戦 対甲府商業 0対3
 〔剣道部〕
 1回戦 対甲府東 1対4
 〔ゴルフ部〕
 (個人戦) 4位 内藤桃乃(1G)
 〔空手道部〕
 (個人形) 出場 近藤樹理(2B)

〔バドミントン部〕
 1回戦 対甲府南 0対3
 〔バスケットボール部〕
 1回戦 対峡南 79対46
 2回戦 対上野原 33対149
 〔ソフトテニス部〕
 1回戦 対甲府東 0対3

〔バレーボール部〕
 1回戦 対甲斐清和 2対0
 2回戦 対帝京三 0対2
 《ベスト16》 総体得点1点
 (団体戦) 対甲府東 1対2
 (個人戦) 井出菜緒・中込怜花組 ベスト16
 ダブルス

〔バレーボール部〕
 1回戦 対甲斐清和 2対0
 2回戦 対帝京三 0対2
 《ベスト16》 総体得点1点
 (団体戦) 対甲府東 1対2
 (個人戦) 井出菜緒・中込怜花組 ベスト16
 ダブルス

2014年度

各クラブの基本方針

合唱部顧問 中村圭世

合唱部は4月に歌の大好きな元気な1年生も加わり、部員数は23名となりました。本年度の最初の発表会は6月7日に行われる山梨県合唱祭で、高校の合唱部と合同で参加します。生徒達は「1曲1曲に精魂を込め、悔いの残らないように歌う」ことを目標に、天明屋恵子先生のご指導のもと日々練習に励んでいます。合唱祭での発表曲は駿中祭と駿高祭でも中高合同で歌いますのでご期待ください。合唱祭以外にも、NHK全国学校音楽コンクール(8月)、全日本合唱コンクール(9月)、山梨ヴォーカルアンサンブルコンテスト(2月)にも参加する予定です。また、老人ホームや保育園でのボランティア活動も積極的に行っていききたいと思っています。

吹奏楽部顧問 内山晶夫

駿中吹奏楽部は、今年度新入部員19名が入部し、現在43名で活動しています。月水金の部活動の他に、発表やイベントが近づく、早朝や土・日も練習を行います。最大の目標は8月の吹奏楽コンクールと12月のアンサンブルコンテスト。楽しく充実した練習を心掛け、その先にある金賞を目指し皆張り切って日々の練習に取り組んでいます。外部指導者の熱心な指導により、レベル、実績とも年々着実に向上しています。他にも駿中祭をはじめ体育祭や壮行会、甲子園を目指す駿高野球部の応援など出番

は豊富です。創部9年目を迎えた部のモットーは、『奏和(そうわ)』です。「皆の力を合せて、和を奏でる」という意味です。この『奏和』の下、日々の地道な基礎練習を欠かさず、いい音作りを常に意識しながら、意欲的な活動を行っていききたいと思っています。



男子バスケットボール部 山口倫明

昨年度、長年遠ざかっていた県大会出場を果たし、悲願の県大会一勝を果たしました。そんな先輩達から後を受け継いだ新チームは、この功績に負けないように自分たちができることを必死になって考え、チーム一丸となって取り組もうと決意しました。今年度は、公式戦一勝を最低条件に、県大会出場を目標に普段の放課後活動だけでなく、土日も汗水流しています。過日行われた市選手権大会では、新人戦で惜敗した北東中に再度競り負け、県大会出場を逃し

ました。この悔しさをバネにし、これまでにまして朝の時間も活用し、一人ひとりができることをしています。市総体までの残り一ヶ月余り、部員および顧問一丸となって総力戦で臨みたいと思います。

女子バスケットボール部 鹿山さおり

総勢33名。これだけの大所帯になると、開会式の整列では一番長い列を作り、どこかの試合会場に行っても目立つ存在となります。先日、サッカーワールドカップの代表選手が選出されましたが、インタビューの中で「選ばれなかった選手の分までがんばります」という決意を何人かの選手の口から聞きました。バスケットボールは5人でプレイするスポーツなので、応援や裏方に回る人数の方が当然多くなります。みんなが同じ気持ちで試合に臨めるように、日々の練習から『全員で一勝すること』を目標に取り組んでいききたいと思っています。

男子ハンドボール部 吉田脩人

男子ハンドボール部は7月25、27日に行われる県総合体育大会に向け、日々練習を重ねています。主将を始め、3年生9人名・2年生3名・1年生9名の総勢21人で頑張っています。昨年度は県選手権、新人戦、県総体ともに3位入賞という結果でしたが、今年度は優勝を狙い、関東大会出場を果たしたいと思っています。

平日の活動場所は主に学校のグラウンドです。汗と土にまみれ、毎日一生懸命練習しています。体育館練習の際は、基礎の確認から試合を意識した戦術練習まで、幅広く練習しています。

総体で良い結果が出せるよう、選手・顧問ともに精進していききたいと思っています。

女子ハンドボール部 手塚美樹

ハンドボール女子部は、「悔いの残らないよう、練習に励む」ことを目標に掲げ、県総体を目指し、日々練習しています。昨年度の先輩が関東大会出場を目指しても、叶わなかった悔しい想いを引き継ぎました。県新人戦では4位という結果からスタートし、1月には県総合選手権大会、塩山温泉郷杯、5月には屋代ハンドボールフェスティバルAカップ、県選手権大会と試合経験を積み重ねてきました。目標を達成するために、更なる努力・積み重ねが必要です。新入部員も迎え、総勢13名で、大会までの残された練習期間を無駄にすることなく、「練習は試合のように、試合は練習のように」を合言葉に、日々努力していききたいと思っています。

男子バレーボール部顧問 柿澤喜英

市内の男子バレーボール部は本校しかないため、一昨年度の新人大会から予選なしで甲府支部第一代表として県大会に出場している。予選を経ずして、他支部代表といきなり試合をするのはかなりのハンデだが、本校の高校生と練習試合を行うなどして、実戦の経験不足をカバーして、日々練習に取り組んでいる。

昨年は、県選手権が2回戦敗退、県総体が1回戦敗退、県新人大会はフルセット、点差も僅差での2回戦敗退と、何とか県ベスト16には入れるようになってきた。3年生にとつて公式戦はあと2大会だけ。練習は裏切らない」を合言葉に、できることをきちんとやる、を意識して、ベスト8を目指したい。

女子バレーボール部顧問 山岸航

女子バレー部も新1年生の入部が確定して、新しい体制になりました。それぞれの目標は1年生：「大きな声を出して、ボール拾いを積極的に頑張る。」2年生：「3年生をサポートし、大会で実績を残す。」3年生：「選手権と市総体で2日目まで残る。」です。バレーボール部員である前に、駿中生であることを忘れずに、謙虚に練習・生活をしてほしいと思います。技術面だけの成長はあり得ません。部活動を通して人間的な精神的な成長を遂げてほしいです。そのためには、挨拶・準備・片づけなどの基本的なことを重視します。部員のみなさんは頑張ってください。さて、3年生の残り数少ない公式戦も近づいています。彼女たちが全力を出せるように、私も精一杯サポートしていきたいです。

サッカー部顧問 斉藤裕一

サッカーの総体は、六十分の試合を一日で二試合行います。この厳しい大会で勝ち進むためには、試合終了まで走り切るスタミナと、強い精神力とが必要です。だから非常に暑かった昨夏も、記録的な大雪となった今冬も、積極的に走り込みを重ねてきました。また、三年生十五名は全員が練習熱心で、いつどの選手が交代しても戦力の変わらない高い総合力があります。一番の目標としてきた総体に合ったチームが出来上がりつつあると手ごたえを感じています。試合で本場に苦しい時に、自分自身を信じ、仲間を信頼して戦えるよう、残された僅かな期間もチーム一丸となって練習に取り組めます。選手はここまでたくさんの事を犠牲にして部活に打ち込んできたので、勝って喜び合える大会にしたいです。

男子卓球部顧問 牧和弘

男子卓球部では部活で培った精神力・技術・体力を試合において十分に発揮して、6月に行われる市総体で上位に入り、7月に行われる県総体へ出場することを目標にしています。目標を達成するためには、接戦の試合に勝つことが必要です。2セットオール8対8(1セットは11点先取、3セット先取)の場面で緊張しないように、試合を想定した練習を多く取り入れていきたいと考えております。

また、卓球は個人競技ですが、普段の練習では部員全員の協力が不可欠です。先輩から後輩へ技術指導をする場面も多く見受けられ、顧問として生徒を大変誇らしく思います。

保護者の方の多大なるご声援に感謝しております。今後とも卓球部をよろしくお願いたします。

陸上部顧問 武川公貴

陸上競技部は新入生が8名加わり総勢26名になりました。和気藹々とした雰囲気なのか、今年度は昨年度以上に活躍しようということ、市総体での全員入賞を目標に掲げました。さらに「県大会でも入賞」「関東大会に出場」という目標を持ち、限られた練習時間・練習環境のなかで目標達成に向けてメニューを工夫しながら、個人練習やリレーのバトン練習など、部員一人一人が高い意識を持って一生懸命に取り組んでいます。

市総体では男女の4×100mリレー、男子共通110mハードルで優勝を狙い、その他種目でも上位入賞を狙っていきますので、皆様の温かいご声援をいただけたらと思います。

女子卓球部顧問 中込範彦

女子卓球部は1年生が10名入部し、2年生12名、3年生3名の総勢25名になりました。経験者がいない1年生を2、3年生が交代で指導して体力作りと基礎練習を行い、2、3年生は実践的な練習を体育館2階で行っています。

先日、笛南中学校の女子卓球部に本校に来ていただき、小体育館で練習試合をしました。団体戦を3試合行い一勝二敗の成績でしたが、練習を積み重ねて一人一人のレベルを上げ、6月13日から行われる市総体では力を出し切って良い成績を残し7月下旬に行われる県大会に出場できるように頑張りたいと思っています。応援よろしくお願いたします。

男子テニス部顧問 羽澤健

男子テニス部は、去る五月五日、十七日に行われた「第十九回山梨県中学校テニス選手権大会」で団体戦優勝という順調なスタートを切ることができました。個人戦では、ダブルスで嶋崎・津金ペア(共に3年生)が準優勝。前田(3年)・藤川(1年)が3位という結果を収めました。大会当日は、多くの保護者の方に応援を頂きました。ありがとうございます。保護者の方々の応援の声が選手を支え、勇気づけたと感じています。この場を借りてお礼申し上げます。

男子テニス部は、県内では強いチームとして見られています。その「強いチーム」が本物になれるかは普段の人間力にかかっています。ただ単にプレーが上手なだけではない、強いチームになれるよう、日々「意識」をした学校生活を送ることが今年度の目標です。

女子テニス部顧問 塩津奈央

今年度、女子テニス部には15名の新入部員が加入し、3年生5名2年生8名計28名での活動がスタートしました。今年初の試合(県の選手権)が早速5月に行われ、団体戦では1回戦甲陵中と対戦し4-1で勝ち進んだものの、2回戦強豪校である高根中と対戦し3-0で敗れてしまいました。個人戦でもシングルス5名ダブルス5組が出場しましたが思うような結果を残すことは出来ませんでした。今回の試合での悔しさをばねに、6月に行われる総体で満足のいくプレーが出来るよう、日々の練習に励みたいと思います。また、1年生は半分近くが初心者なので、3年生を中心に素振りなどの基礎練習をさせ選手の育成に努めたいと思っています。

軟式野球部顧問 内藤伯哉

「県を制す。」これは軟式野球部の目標です。各選手、高く共通の目標を持っていきます。練習時間・場所を思うように取れず悩ましい点もありますが、それを言い訳にさせないように、普段のクラブ活動では効率の良い練習を意識して取り組んでいます。また、新人戦は県ベスト4入り。現在開催中の選手権ではベスト4が確定となり、県総体でのシード権を獲得しました。目標に一步近づいていると思います。3年生最後の大会でもあります。少しでも長くこのチームで野球をできるように、チーム一丸となり、また指導に携わる者も一丸となって、総体では一戦一戦全力で悔いの残らないように挑戦者として試合に臨みたいと思います。

国語＝日本語です！

国語科担当 中沢恭子

「国語が苦手」という声が子どもたちの中からよく聞こえてきます。これは実にもつたないことです。

というのも、国語というものは国の代表的な言葉です。つまり、日本に住む私たちにとって、国語というものは日本語なのです。いつも何気なく口に出ている言葉、友達と話すときの言葉こそが日本語なのです。では、日本語を話せる私たちは何のために国語を学ぶのでしょうか？

それは、言葉の上手な使い方やルールを学び、より上手に自分の想いや考えを相手に伝えられるようにするためです。それは、カレーのおいしい作り方を知っている人がカレーをつくったらおいしいカレーが完成するのと似ています。

ところで、「何が食べたい？」という問いに対してAとBが答えました。

A「ラーメンがいい。」

B「ラーメンがいい。」

AとBの違いはたったの一字です。でも、受け手には大きな違いが生じます。この違いを知るということも国語の学習です。国語力を身につける方法としてよく読書を取り上げます。それはなぜでしょう。よい文章にふれることで、言葉の上手な使い方を知ることができるからです。

一く六年生の国語の教科書には様々な文章が載っています。これらに載る教材を授業で学習することは、それだけ多くの良い文章に出会うということです。国語は日本語。これら文章を最大限に利用し、少しでも「国語が得意」という子ども達を増やし、育てていきたいと思えます。

きめ細かく 確かな学力を

算数科担当 興石 純一

小学校の算数授業では、1クラス20人前後の少人数クラスで授業を展開しています。きめ細かな指導を行い、一人一人が着実に力を伸ばしていくための編成になっています。計算の手順が正しく理解できているのか、問題の文章を的確にとらえているのかなどを確認することができません。

低学年では、足し算や引き算などの四則計算の方法、数量や図形の基礎的な知識や技能を養う学習を進めています。水の量や分数の学習では、具体的なものを使い、量感を養います。ノートの書き方やマスの使い方方もこの時期に定着を図ります。

学年が上がるにつれて、具体的な数の概念から抽象的な数の概念へ理解が移ってきます。中学年から始まる課外授業に参加し、理解の定着を図ったり、より発展的な内容を学習したりすることもできます。

そして、5、6年生では、駿台独自の教材である「フロンティアJr」を使って学習を進めます。このテキストを学習して、より発展的な内容に踏み込み、数学的な思考力を養います。自分の答えをどのように導いていくか、表現力も磨いていきます。また、昨年度からは、中学校と連携して、中学校との接続を密接にするため、中学校の数学の先生に算数の課外授業を担当していただいています。子どもたちにも、とてもいい刺激になったようです。

以上のように、6年間の算数の学習の中で、基礎基本の学習を進め、確かな学力を身につけていきます。

学ぶ喜び、を実感できる理科

理科担当 田中 愛子

「先生、ミカンの葉にアゲハの卵と幼虫がいます！」プロコリーの葉の裏にいっぱい卵がついていました！これはモンシロチョウですか？「ナナホシテントウを持つてきました。教室で飼ってもいいですか？」

三年生は今、生き物の観察に夢中です。四年生は、一日の気温の変化を調べる観測を一度行ったところ、もっと詳しく調べたいと子どもたちが希望し、二回目の測定を朝七時台から張り切って始めました。得られたデータをグラフにする作業も楽しそうで、結果からいろいろな発見や考察に授業が盛り上がりです。五年生は、気象情報を新聞や気象庁のウェブページから個々で収集しノートにまとめ、雲の動きや天気の変化に規則性があることを発見したり、そこから天気予想をしたり、発展的な自学へとつながっています。六年生も本格的な化学実験が始まりました。実験操作の手際がよく、結果も上手にまとめ、考察するところまで四十五分の授業内で全て完結します。これらの学習活動に共通しているのは、好きで学んでいるということ。理科の本質的な部分に面白さを感じて、児童自ら科学的な現象を追究しているのです。

「不思議だな」という感動や「すごいな」という驚きは理科の大きな魅力です。分かんかったことが分かるようになってくるとか、学習したことが為になるなど実感を伴った理解ができたとき「学ぶ喜び」が生まれまします。また、楽しいと思っただけから負担感を持ちません。これからもどんどん子どもたちの知的好奇心を刺激し、科学的思考力を確実に伸ばしていきたいと考えています。

興味＋調べる＋関連づける＝社会

社会科担当 嶋田 顕

小学校の社会科は、1・2年生での生活科を経て、3年生から始まります。3年生では自分の家や学校の周辺を中心とした生活に関することを学び、自分の住む【まち】について学習します。学年が上がるごとに、学習する生活圏は広がり、4年生では【都道府県】、5年生では【日本・世界】の視野に立ち学習していきます。そして、6年生では【日本を中心とした歴史・政治】の内容に触れていきます。生活科を含め、小学校の6年間で学ぶ社会科の枠組みは、身近な生活の様子から（過去を含めた）世の中の仕組みまで幅広く広がっていきます。

その様に捉えらると、まずは自らの生活の様子や仕組みに興味・関心を持つことが、社会科を学習する上で大きなきっかけとなります。その上で、関心を持ったことを感じた疑問と共に自ら調べていく過程が、子どもたちの知識を大きく伸ばしていきます。その際、●最新の資料・データを元に調べること ●できるだけ実物を見たり、現地を訪れ、生のモノに触れること が正しい知識を増やしていきます。そして、調べて得た様々な知識を別の事柄と関連づけていくことで、身の周りの生活の様子から世界の様子まで繋がりが、理解して、いくわけです。

暗記より理解、つまり根本原理（＝世の中の仕組み）が分かることが、社会科の学習においても重要なことです。

5月は6年生で鎌倉自由散策、6月は5年生で自動車工場見学を行います。興味を持ち、資料を調べ、最新のモノ・生のモノに触れ、様々な歴史・産業の学習に関連づけられる校外学習にしたいと思えます。

学校農園つくし村

つくし村担当 長澤宏治

駿台甲府小学校にはつくし村という学校農園があります。ここでは、各学年が季節に合った様々な野菜を育てています。

普段スーパーなどで目にする野菜も、実のなり方については、知らないことが多いです。例えば落花生は木になると想像する子どもが多くいました。実際に収穫を迎え、落花生は土の中にできることや、花が落ちた後に子房が地中まで伸びて実がなるために「落花生」という漢字になっているなど、一つの野菜からも多くの発見ができます。

また、収穫までの過程も大切です。種や苗を植えて終了ではなく、水やりや雑草の処理など、「面倒な作業」をしていかなければなりません。手を加えて汗をかけばかくほど、収穫の喜びも大きくなるようです。収穫の後は、お楽しみの実食です。学校で食べたり、家に持ち帰って食べますが、いずれも、誰かと食べる時間を共有することになります。

ところで、「こしよく」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか。実は、孤食（一人で食べる）、個食（家族がばらばらなものを食べる）、固食（好きなものしか食べない）、小食（食べる量が少なくバランスが悪い）、粉食（インスタント麺などの粉食中心）、濃食（味の濃い食べ物）など様々な「こしよく」が増えてきています。そのような中、一生懸命育てた野菜を学校や家の皆と一緒に味わうことは、体だけでなく、心の栄養補給にもなるはずです。

畑での体験が、体と心の成長につながるよう、今後も子どもたちと野菜作りにチャレンジしていきたいと思えます。

わくわくドキドキがいっぱい

生活科担当 雨宮詩織

生活科では、子どもが人や自然とかかわる活動を通して、思いを膨らませたり、気付いたり、表現したりという学習を行います。一年生では、春の花々や虫を見つけたり、夏には水遊びをしたり、秋には落ち葉を踏み、秋の音を聴き、冬にはソリ遊びもします。こうして、身近な自然と関わりながら、四季の特徴や四季の変化を感じていきます。季節とともに、「しなやかな心・体・頭」で、たくさん発見をし、体全部で受け止め、成長していきます。二年生では、三年生からの社会科に向け、地域探検などで身近な仕事や場所についても学びます。四季の変化や季節によって生活の様子が変わることで、自然の不思議さ、動物や植物が生命を持っていることや成長していること、これらは子どもたちが生活科の中で、自ら「気付き」、学んでいくことです。

5月、二年生では、「生きもの はっけん」の単元で、ザリガニの飼育を始めました。初めて身近で見える児童は、わくわくドキドキ…。初めて掴むと、「キヤー動いた！」としゃやがながらも、「さらさらしてるね。お腹が割れてるね。」など、たくさん発見をしました。こうした体験を通して、学ぶことの楽しさや、自分から経験を求める気持ちを育てていきます。



英語に親しみ、楽しもう！

英語科担当 筒井 雅美

国際化の進展する時代。国際化社会で活躍できる人材の育成に向けて、より実践的な英語教育、英語を媒介としたコミュニケーション能力の育成が重視されています。

こういった時代の進展を受け、駿小では、開校当初からネイティブ教師による英語の授業を行っています。現在、1・2年生は週3回、3・4年生は週2回、5・6年生は週1回と、たつぷりと英語に親しむ授業時間をとっています。英語の授業の前、こにこしながらネームカードをつけ、授業開始を心待ちにする姿を多く見かけます。目をキラキラさせながら初めて知った英語を話す姿、知っている英単語をならべて、なんとかネイティブ教師に話しかけようとする姿。授業で習った英語の歌を友だちと楽しそうに歌う姿。そういった子どもたちの姿を見ると、1年生からネイティブ教師による『生きた英語』にふれ、楽しみながらコミュニケーションをはかろうとする力が培われているように感じます。

また、5・6年生には週1回「外国語活動」の時間もありません。駿小では、小中連携をいかし、駿中の英語科の教員が出張授業に来てくれています。外国語の授業では、これまでのネイティブ教師の授業で学んだことを生かしながら、中学校の英語の授業にスムーズに移行できるように学習内容を組んでいます。外国のあいさつや文化を知ること、日本とのちがいを感じ、日本の文化に気づき、再認識するきっかけにもなっています。英語に親しみ、楽しみながら学習する子どもたちは、国際人としての第一歩を踏み出せていると思えます。

体力向上のために

体育科担当 齊藤 隆一

『子どもたちの体力向上』この課題を達成すべく、今年度も駿台甲府小学校では、様々な取り組みをしていきます。

まずは、毎年冬季に継続して実施している「おはようマラソン」。昨年度からスタートした「チャレンジアップタイム」で、朝の時間や休み時間に野球場を何周も走りまわす。専用のカードに走った分だけ色をぬり、自分の取り組みを確認します。

次に、一年生から六年生までが四色に分かれて活動する「縦割り活動」の中で体力向上を図っていきます。「綱引き」や「台風の目」をはじめとする運動会の縦割り種目に加え、「しっぽ取りゲーム」や「ボール運び」、「大縄くぐり」など、昨年度から「チャレンジフェスタ」という縦割りグループ対抗の時間を設け、取り組んでいます。全校児童が自分と同じ色の縦割りメンバーと力を合わせて同じ時間を共有し、体を動かすことで、異年齢間のコミュニケーション力の育成にもつながっていくと考えます。

また、それぞれの学年の授業でも、体力向上や運動能力を高めることを目的としたものを積極的に取り入れ、週3回の体育の授業の中で、楽しみながら運動能力の基礎基本を学んでいます。

一学期は、これからますます気温が上がる中、運動会や水泳教室があります。暑さに負けないためにも、全ての活動の基本となる『体力』は大切です。毎日三食しっかりと食べ、睡眠を十分とり、休み時間や体育の時間など、体を動かせる時間には体をいっぱい動かし、元気で健康に、充実した学校生活を送っていきましょう。